

科目名 (演習題目)	特別演習 (構造工学Ⅱ・Structural Engineering II)	担当者	鬼頭 宏明
授業形態・開講日	講義+演習・後期・毎週金曜日・3限・C327教室		
学習目標・到達目標	鋼とコンクリートの弾塑性挙動を記述するために不可欠な(1)応力とひずみの表記法、それを用いて両者の破壊現象に関する実験的事実を数式表現した(2)破壊基準、さらにそれに塑性論を適用して導かれる(3)弾塑性構成式への展開を学ぶ。		
授業概要	受講者各自が各種数式展開を追跡し、種々の荷重条件へと適用する演習を行う。それにより、そこに内在する仮定や適用範囲を踏まえた、弾塑性構成式の理解を深める。		
授業計画	[1] 導入(演習内容・計画の概要説明) [2-5] 応力とひずみの表記法(主値、不変量、平均成分、偏差成分など) [6-9] 破壊基準(von Mises, Mohr-Coulomb, Drucker-Pragerなどの条件) [10-14] 弾塑性構成式(載荷関数、塑性ポテンシャル、関連流動則など) [15] レポート講評		
教材	資料配布		
参考書・参考資料	富田佳宏(1995)『弾塑性力学の基礎と応用』森北出版など		
評価方法・評価基準	レポートによる		
関連科目	構造力学		
受講者へのコメント	授業時の質疑をはじめ、活発な意見交換を歓迎します。		
室番号・TEL・E-mail	C312・内線 3050・kitoh@civil.eng.osaka-cu.ac.jp		